

# しののめだより

令和4年度第24号 令和5年3月13日発行 富士東高校情報交換ひろば

# 「しののめ探究」成果発表会~1年生~

一雨ごとに暖かくなってきました。本格的な春の到来ですね。

3月8日(水)に「しののめ探究」1年生の成果発表会を行いました。1年生の発表単位は「**個人**」で、**各自のテーマに沿って全員が発表**しました。体育館フロア全面に30のブース、7ラウンド。静岡県立大学STAFF(学生アドバイザー5人、教員1人)や保護者の皆様にも御来場いただき、大盛況でした。プレゼン初体験だった生徒も多かったことと思います。来年度の探究につながる第一歩として、一人ひとりの「頑張った」が詰まった場内で

した。学生アドバイザーからは今後につながる貴重なアドバイスもいただいています。10人に発表内容紹介の御協力をいただきました(掲載順は発表回順。写真は別です)。今後さらに成長していく1年生に期待します!

# 音楽ってなんで聞くの?

音楽ってなんで聞くのかなと思い、クラスの人にアンケ ートをとってその結果と論文からわかることを発表し ました。結果として、論文に書いてあったことですが音 楽には不安軽減効果やリラクゼーション効果という効 果があり、今音楽療法としても注目されていることがわ かりました(でもその人が今聞きたい曲やその人に合っ た曲じゃないとその効果は得られない)。クラスのアン ケートでどんな時に音楽を聞くかと質問した所、多かっ たのは、勉強中と移動中でその他にも入浴中や寝る前な どでした。あと、好きな曲の系統を聞いた時に、恋愛系 や勇気・元気系が多かったです。でも、僕が思うに、勉 強中に聞く曲と大会や発表会など緊張する時に聞く曲 と音楽をメインで聞く時とでは違うと思います。だから みんなその時の心情に合わせて、その時間きたいと思う 曲を聞いて心を落ち着かせたり、緊張をほぐしたり、や る気を出したり、ストレス発散、これは音楽の持ってい るリラクゼーション効果が見られます。最近では、サブ スクが発展していてすぐ音楽が聞ける環境があり、今の 人は無意識にリラクゼーション効果に操られてます。

Q (県大生に) 音楽と曲の違い を聞かれました。



県大生にも言われたのですが、身振り手振りを使ったり、指でグラフを指したりなどしたかったです。僕は聞いてる人が飽きないように、楽しませるエンターテイメントを途中にいれたいです。問いかけなども入れて聞き手も話し手も一体となって発表したいです。7分というと、本田圭佑さんもびっくりしていたように、案外長く感じるけど話すと緊張で早口になったりして一瞬に感じます。(①B3/Y.0.さん)

# 好きな色とパーソナリティー

好きな色	人と誰すの好き?		1543?34443?			感情如表に出る	
赤3	* 2	at 0	0	0	2	41	xn- 
青 8	6	2	5	-1	2	6	2
緑 5	5	0	1	2	2	4	I
黄 3	3	0	0	- (	2	3	0
紫4	4	0	3	1	J	3	1
黑3	3	0	1	0	2	2	1
17-6-1	1	0	1	0	0	- /	0
茶 0	0	0	0.	0	0	0	0

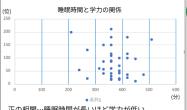
初めて I からアンケートを作り、 自分で全てをまとめたので、考察 したり、その考察を裏付ける論文 を探したりするのが大変でした。 また、初めての人もいる中での発 表で緊張してしまい、あまり皆の 目を見て発表できなかったので、 発表の練習も必要だと感じました。(①B6/H.K.さん)

好きな色と性格に関することにしてといったというとならというというというというできなった。

Q 「非協調的 (発表内で出 てきた単語)」 とは?

# 睡眠時間と学力の関係

"睡眠時間が短いほど学力が高い"という仮説を立てて、アンケートを使って集めたデータを数値化し、相関係数を求めました。その結果、2つの関係性はあまりないのかもしれないという結論になりました。



正の相関…睡眠時間が長いほど学力が低い 負の相関…睡眠時間が短いほど学力が高い Q アンケートで答 えてもらった睡眠 時間はいつのもの だったのですか? A テスト後のもの

アンケートを実施したタイミングがテスト後になってしまったから、テスト前の睡眠時間のデータを使っていればもう少し関係性が強まったかもしれないと思いました。練習通りいかなかったこともありましたが、自分の調べたことを他の人に伝えることができてよかったです。次の機会があれば発表のスライドをもっと工夫したり、要点をもっとわかりやすく簡潔にまとめたりして、より良い発表を目指したいです。(①E2/H.M.さん)



# 学習成績と勉強に対する取り組み方

Ⅰ年生の成績と勉強時間や 生活環境は関係しているの かどうか、というテーマで 8つのアンケートをI3HRで 行い、成績上位者の特徴に ついて考察しました。

今回は論文をアンケート結果の裏付けとしてでいましたが、批判的な観点として利用したら新たな疑問が生まれ、より面白い論文になると思いました。

(②B5/S.A. さん)

考察 (上位30%をすごく勉強が得意な人とする 以下成績上位者とする。)

13HRでは塾の有無、部活動の種類によって成績が変わる事はないと考えられる。 勉強時間が長い人(ここでは平日休日どち らかが3時間以上とする) 10人のうち成 績上位者は5人。

よって勉強時間より勉強内容のほうが大切だと考えられる。

- Q 「効率の良い勉強法」 とは何ですか?
- A 暗記は書くのでは なくスキマ時間を使って頭の中で何度も 復習します(私が実践 していること)。

# 睡眠と運動の関係について

運動と睡眠の関係を調べるために運動部と文化部で睡眠時間や部活動時間、授業中の眠気、眠くなったと考察処法などをアンケートで聞き、その結果と考察はおいてまとめました。結果は睡眠時間と部活動時間と部活動による差はなかったが、授業中に眠くなるためを運動部のほうが眠くなりやすいと思われることがわかのほうが眠くなりやすいと思われることがわかのほうがより多くに、論文にも運動後のほうがより多くの時間を必要とすることが書かれていました。また文にもできないためには規則正しく、長く睡眠を取ることが最も大事らしいです。

部活動別睡眠時間と部活動時間の平均・最大値・最小値 時間 呼眠 ポ活動 マウラ また値 最小値 平均 最大値 最小値 マケラ は 1 2.1 3.5 1.5 に 関係 できます は 1 2.1 3.5 1.5 に できます は 1 2.1 3.5 1.5 に できます は 1 2.1 3.5 1.5 に に できます は 1 2.1 3.5 1.5 に に できます は 1 2.1 3.5 に できます 1 2.1 3.5 に できます は 1 2.1 3.5 に できます 1 2.1 3.5 に できます 1 2.1 3.5 に できます 1 2

(眠くなったときの対処法として『飴をなめる』『水を飲む』と答えた人がいたことについて)授業中に飴をなめたり水を飲んだりしてもいいのか?

▶ おそらく大丈夫!

今回、運動後のほうが眠くなりやすい事がわかったのでたくさん運動した日はより早く寝て多くの睡眠時間を取ろうと思いました。また、運動をしてない日でも眠くなることがあるので規則的な睡眠を心がけたいと思いました。また、クラスだけだと文化部の人数が少なく、データが少なかったので今度もっと広い範囲で調査してみたいです。(②BI/S.M.さん)

#### 教科に対する意欲について

私は『教科に対する意欲について』という発表タイトルのもと教科に対する好き嫌いは教科担任の印象の好ましい好ましくないに関係があるのかを調べました。教科の好き嫌いとその教科の先生への印象を聞いたところ、この関係は深そうに思えましたが、その後の質問への回答や論文を読んだところ、無いとは言い切れませんが関係は浅いと結論付けました。

- Q 好きな教科と答えた人が一番多かった教科と そのクラス担任が教える教科に関係はあると思 いますか?
- A 私のクラス担任が教えてくださる教科に一番 回答数が多かったこと、他のクラスの方の発表を 見たところ似た質問に対してその教科には回答 数が少なかったことを踏まえて、「関係は少なか らずあると思う」と答えました。

# 自己肯定感のある生活

2.05 2.15 2.25 2.25 2.20 个4 45 04 01 02 01 第1 第2 第) - 是五集集 - 文子型的 Figural 2016年5018年50日第一年3年5日

より、男子の方が女子よりも <sup>280</sup> 自己肯定感が高いとされている 今回のアンケートにおいても、 女子より男子のほうが自己肯定感 が高かった。その理由としては、

青年期にみられる否定期というものが考えられている。

図 男女差が生まれる 理由は?

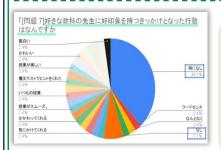
A 青年期にみられる 否定期と肯定期の時 期が違うからです。



I5HRの全員に自己肯定感に関するアンケートより自己肯定感の有無や男女差を調べて、論文も用いてまとめました。

作ったスライド自体では、 を表示しているでは、 を表示しているでは、 を表示してででしているででは、 を表示しています。 を表示しているがでいるがでいるがでいるがでいるができる。 でもましたのでは、 を表示です。

(③D5/A.Y.さん)



自分達が行ったアンケートから考察して結論付けることがどれほど大変なのかを身をもって体験し、それを発表して自分なりの言葉で伝える難しさも痛感しました。しかし、発表時に一人ひとりがうなずきながら聴いてくれたことを本当に嬉しく思い、自分の自信へと繋がりました。またこのような機会があったら、さらに面白いと言ってもらえるような発表にしたいと思います!(⑤C6/A.I.さん)



## 人のガサツは何に関連しているのか?

自分はガサツな性格なので、何が原因で人はガサツになるのかについて発表しました。結果は遺伝が大きく関係していました。また、血液型、性別は無関係であることもわかりました。

Q 遺伝は生まれた瞬間から持っているものだが、発表ではどのような意味で使っているのですか?

へ この発表では育った環境も含めて使っています。

自分が調べたこと、伝えたいことが相手に聞こえないことを一番避けたかったので、相手の目を見て堂々と発表することを意識出来ました。内容は、もう少し考察をしっかりやるべきだったと思います。アンケートの結果から、論文などからわかることを繋げて説得力のある発表にしたかったです。次は考察に力を入れたいです。(⑤)06/Y.I.さん)

# 数学の得意不得意には男女間で差はあるのか?

数学の得意・不得意には、どのような関係が見られるのかを発表しました。男女別数学の得意・不得意や、文系理系別数学の得意・不得意、性格別数学の得意・不得意について焦点を置き、分析しました。男女別では、数学の得意・不得意には差があり、男子の方が得意な人が多かったです。文系・理系別では、理系の人の方が文系の人より得意な人が多かったです。性格別では、活発な人が一番得意な人が多く、真面目な人が一番得意な人が少なかったです。

「性格別数学の得意・不得意」

「中ゥたり」

10 20 30 40 50 60 70 80 80 100%

25 45 30

「議報]

10 20 30 40 50 60 70 80 80 100%

40 60

「無面目」
10 20 30 40 50 60 70 80 80 100%

10 10 20 30 40 50 60 70 80 80 100%

性格別数学の得意・不得意を調べる上で、 どうして真面目、ゆったり、活発の3種類で 質問したのですか?

数学の得意・不得意の関係を知ることができてよかったです。発表の時に緊張してしまって、早口になったり、言葉を噛んだりしてしまいました。経験を積み重ねていき、プレゼンを上達させたいです。今回の調査を、クラスだけでなく学年全体に聞いて、分析してみたいと思いました。(⑦E5/R.E.さん)







## 文理選択について

14HRの生徒を対象に文理選択に関するアンケートを行った。アンケート内容は得意科目を問うものでその結果は、男子が理系科目、女子が文系科目を得意とするという結果になりました。そこから、なぜそのような結果になるのか疑問に思い論文を探しました。論文には「男子=理系」「女子=文系」という固定概念があるためだと分かりました。

「男子=理系」「女子 =文系」という固定 概念があるかのアン ケートをクラスで行 いましたか?

調査を進めるにつ れてアンケートをと った方が良かったと 気がつきました。

今回、アンケートを取る際にどのような結果になるのかを予想せずにアンケートを制作してしまったため足りない情報が多かったです。今後、このような活動を行うときには結果の見通しを立ててから行うとスムーズに調査を進められると気がつきました。

(⑦B3/Y.M. さん)

■自分が調査したものを認めてもらいたいという思いをもつ、聞き手を楽しませたいというエンターテインメントの心をもつ。→自発的に前を向いて発表できるようになる。
■情報を集める姿勢――常に「何が

分かったのか?」を一言で説明でき るようになろう! (Mさん) ■アンケートの結果、論 文からの結果、考察が区 別されていて聞きやすか った。

■見せ方(話し方、身振り 手振り)を学ぶのも大事 な要素の一つ!(Sさん)

#### ■プレゼンの仕方について、 事前の準備が必要!

(まずは自分の背景を知ってもらう。人の目の集め方を 工夫する。強調する場所を分ける。書きたいことは簡潔 に。指差しなどを使って視線 を動かすことも大事。)

- ➡そうするともっといい発 表になる。(Mさん)
- ■分かりやすく興味深い話が多く、よくできていた。
- ■発表は前を見て。自信がも てるまで練習しよう。
- ■テーマの重複が気になる。
- ■アンケートは人の話を聞いているだけ。 論文や正式なデータで自分の考察を裏付けることが大事。 (Wさん)

- ■テーマを決めて、調べて、アンケートを取って、まとめるという一連の流れができていた。
- ■結果は文章だけでなく図など でまとめられるとよかった。
- ■事前に質問を想定して準備しておくとよい! (Mさん)
- ■身近な話題が多かった。
- ■調査、まとめ、発表を高校1 年生の段階からやるのは素晴 らしいこと。大学ではそのよう な機会が多くある。
- ■説得力をもたせる伝え方 Q(qualitative)定性 Q(quantitative)定量 S(specificity)特異性 O(objectivity)客観性 を意識するとよい。(K先生)